



連合第14回定期大会

榎本書記長の発言が大会をリード！

10月6日～7日、東京国際フォーラムで連合第14回定期大会が開催された。

古賀会長は挨拶で、閉会した通常国会に触れ、安倍政権は労働者派遣法の改悪と安保関連法案を数の力で押し通した。立憲主義と民主主義を根底から揺るがす暴挙だ。連合は「安倍政権にNO！」を合言葉に国会包囲行動など様々な行動を取り組んできた。安倍政権に対する反転攻勢に向け、力を合わせようと述べた。さらに会長職を今大会で退任する事に触れ、連合運動の10年を振り返りながらこれからの連合運動について提起した。

大会の質疑では8産別が発言した。JR総連・榎本書記長は、連合2015春闘が、月例賃金引上げにこだわり、大衆運動としてつくられたことを評価、2016春闘での更なるたたかひの構築と社会運動の底上げのための指導を要請した。また国民の多くが反対している安保関連法案が強行採決されたが、安保関連法案成立を阻止するために連合として国会前行動を取り組み、談話も発表し連合のスタンスを鮮明にしたこと、また戦争法の運用停止と廃止に向けた大衆運動の組織化と参議院選挙の取り組みを強化する闘いの指導を要請する発言をした。

神津事務局長より、春闘は底上げが重要であり、組織労働者としての連合として発信していく。安保法制について連合は5月の執行委員会で政権の対応に反対していくことを確認して以降、取り組みをつくってきた。民意を無視した強行採決は断じて許せない。ここからのたたかひが大事であり、連合は社会的に広がりのある運動として結果に結び付けていくと答弁がされた。

大会は、新役員を選出をし、神津新会長の団結ガンバローで終了した。



写真左上：発言する榎本書記長／写真上：団結ガンバロー／写真左下：中央が新会長、右隣が新事務局長／写真右下：武井委員長も執行委員で再選